

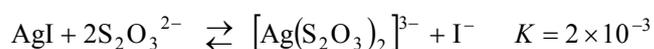
## ハロゲン化銀の溶解性

	水溶性	NH <sub>3</sub> aq	S <sub>2</sub> O <sub>3</sub> <sup>2-</sup> aq	CN <sup>-</sup> aq
AgF	黄色溶液	[Ag(NH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub> ] <sup>+</sup>	[Ag(S <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ) <sub>2</sub> ] <sup>3-</sup>	[Ag(CN) <sub>2</sub> ] <sup>-</sup>
AgCl	白色沈殿			
AgBr	淡黄色沈殿			
AgI	黄色沈殿			

AgI とアンモニア水の反応が起こらないというのは「ほとんど起こらない」という意味。実際には、わずかながらアンモニア水に溶け、以下の平衡が成立している。



一方,



平衡定数（錯体の安定度定数） $K$ を比較すると、 $K = 2 \times 10^{-9}$ と非常に小さいため、教科書的にはAgI とアンモニア水は反応しないとしているだけである。

ちなみに、AgI の結晶構造は氷に似ているため、水が結晶する際の種となりやすい。

そのため、AgI の粒子を大気中に散布すると、それを核にして雲が発生する。

AgI には毒性があるが、人工降雨に使用される量は非常に微量であり、人体に影響を与えるほどではない。